

横田英史の 書籍紹介コーナー



問いのデザイン

～創造的対話のファシリテーション～
安齋勇樹、塩瀬隆之
学芸出版社 2,970円(税込)

ワークショップのファシリテーション(進行)に関する実践書。どのように問い立てを行い、課題の解決に向けて、どのようにメンバーの対話を促していくかを解説する。展開する理論は豊富な経験に裏打ちされており説得力に富む。ワークショップだけでなく、取材や会議、プロジェクトにも応用ができる。

ワークショップや会議、ブレストで創造的対話を実現する一つのポイントは、創造的な発想を妨げる「認識と関係性の固定化」を解くこと。一度習得したことを捨てる「学習棄却」が重要だと説く。本書は、ファシリテーションの定義にはじまり、問題の本質をとらえ解くべき課題を定める手順、課題に対して創造的対話を促進する方法、ファシリテータに必要なコアスキルを紹介する。最後に事例として、筆者がかかわった資生堂、京浜急行、中高生・教師向けのワークショップを取り上げる。

あなたの会社もブロックチェーンを始めませんか?

日本アイ・ビー・エム ブロックチェーンチーム
中央経済社 3,080円(税込)

ブロックチェーンといえばビットコインなどの仮想通貨を思い浮かべる方も多いだろう。本書は仮想通貨以外のブロックチェーン・プロジェクトをまとめた実践書。

意外に普及している状況がよく分かる。プロジェクト経験のある日本IBMのコンサルタントが、IoTやセキュリティなど組み込み系を含め17件の国内外の事例とプロジェクトの進め方を具体的に紹介しており役立ち感がある。「ブロックチェーンって、ソリューションにどう使えるの?」という方にお薦めだ。

筆者が強調するのが、「ブロックチェーンを目的としてはならない」という点。PoC(概念実証)だけで終わるブロックチェーン・プロジェクトが後をたたないのは「ビジネス視点での目的が不明確だから」と指摘する。プロジェクトの進め方はIBMが知見をまとめたBVDと呼ぶ手法に基づいており、切り口が明確でわかりやすい。

Learn or Die

～死ぬ気で学べ プリファードネットワークスの挑戦～

西川徹、岡野原大輔
KADOKAWA 1,650円(税込)

AIベンチャーとして知られるプリファードネットワークス(PFN)の創業者である西川徹と岡野原大輔が、起業の経緯や経営理念、現在までの道のり、技術論、資本政策、採用基準などを述べた書。若々しさが感じられる書である。通りいっぺんの成功物語を予想していたが、良い意味で裏切られた。技術者らしい語り口で共感できることが多い。

現時点でのPFNの関心はロボット(パーソナルロボット)と自動運転、がん

検診に向いている。本書はその理由を詳しく説明する。最大の驚きは、PFNがAIチップやスーパーコンピュータの独自開発など非常にハードウェア志向が強いことである。東大の平木研究室出身の西川は、ハードウェアとソフトウェアの連携の重要性を説く。ETロボコン出身者がCTOを務めているとは寡聞にして知らなかった。

コロナ危機の経済学

～提言と分析～

小林慶一郎、森川正之・編著
日経BP 2,750円(税込)

新型コロナ禍を経済学の観点からどのように捉え、ウイズコロナに向けてどのように対応するべきかについて俯瞰に論じた書。マクロ経済学、医療経済学、労働経済学、ファイナンス、行動経済学、国際経済学など間口を大きく取り、論点を多角的に整理している点は評価できる。

本書は大きく2部で構成する。前半では経済政策、制度変更、セーフティネット、財政、グローバル化、食料安全保障、医療の観点から、「どのような政策が必要か」を論じる。後半は、対コロナウイルスの基本戦略、創薬、POSデータに見る消費動向、子供への影響、企業業績・倒産、働き方、都市の在り方などを切り口に、「コロナ危機で経済、企業、個人はどう変わるか」について分析する。コロナ後の経済社会のビジョンや「ポストコロナ八策」など、政策志向の強い研究者による提言は価値がある。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。
川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現xTECH)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。
2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役役に就任。2018年3月退任。
2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、現在に至る。
記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。
*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

